

## No.63 藤本 由紀夫 「耳の椅子」

Yukio Fujimoto

北川フラムさんのコラム / 1995 (平成7) 年 10月1日付 立川市市報記事より

学期ごとの終業日、返してもらった画用紙は、パツとしない通信簿に比べて楽しい使いみちがあった。チャンバラをしたり、耳にあて風の音を聴いたりした。現代では、風の音を聴くのは都市生活者にとって、ぜいたくな遊びのひとつでもある。

藤本由紀夫は音を使った作品をつくる。オルゴールや共振板を使った作品は美しく、どこかほっとする。

ここでは幼い日の糸電話や紙筒拡声器を思い出させる椅子を作った。

女優の真野響子さんとファーレ立川をまわった時、彼女はこの椅子がお気に入り、「ほら、貝殻の音が聞こえる」と喜んでいて。ポーツという音の向こうに、海の貝殻のつぶやきや、砂浜の下を流れる水のささやきを聴くことができる人もいるのだ。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現 : UR 都市機構) 「ミニ通信」より

### EARS WITH CHAIR

- ・ EARS WITH CHAIR は、直径6cmのパイプを両耳にあてるといふ、聴覚体験のための単純な装置である。  
周辺で生じた音がパイプを通して耳に到達する。その際、パイプの共鳴現象により、環境の音は独特な唸りを持った音に変化する。
- ・ EARS WITH CHAIRは、音を発生させる装置ではなく、環境の音を少し違った状態で聴くための装置である。
- ・ EARS WITH CHAIRは、人との関わりを必要とする装置である。椅子に腰掛け、パイプを耳に当てることによって「聞く」ことができる。
- ・ EARS WITH CHAIRは、人と関わることのできる空間であるならば、どこにでも設置することが可能である。装置の形態は同じでも、設置される空間が変われば、作品も変わる。
- ・ EARS WITH CHAIRは、周辺環境の音の変化を問わない。騒々しい環境であろうと、すべて同等の条件として受け入れる。

- ・ EARS WITH CHAIRは、目にみえない空気の姿を「聞く」ことにより知覚する装置である。
- ・ 街は目に見えるものだけでできているのではない。目に見えるものよりもはるかに多量の目に見えないもので街は作られている。その目に見えないものは、自然とともに、そして、われわれ人間とともに絶えず息づいている。

EARS WITH CHAIRは街を聞く装置である。